

Title	聖学院小学校での「日本を伝える」英語の授業：日本文化・習慣を英語で発信
Author(s)	藤原, 真知子
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-No.5 : 2-3
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=2895
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

聖学院小学校での「日本を伝える」英語の授業 —日本の文化・習慣を英語で発信—

藤原 真知子

今や世界はグローバル化が進み、コミュニケーション手段として、世界共通語の役割を担っている英語の使用が不可欠となっている。このような現状に鑑み、聖学院小学校での英語教育は、コミュニケーションを楽しみながら、4技能をバランスよく身につけることを重点の一つとしている。

ここで、もう一度考え直してみたいのは、そのコミュニケーションの内実である。よく言われるように、文化と言葉は切り離せないものであり、外国語の学習は必ず異文化理解を伴っている。日本では明治の近代化以降、あるいは、それ以前より、異文化の受け入れに積極的であった。しかし、グローバル化が進む中で受容偏重に対する反省も指摘されるようになって久しい。

児童の生活レベルでグローバル化を見えてみると、日本にいても外国の人々と接する機会が多くなると同時に、家族とともに海外旅行に出かける機会やホームステイなどで海外に滞在する機会も増えている。そして、これらの具体的な場面で、自国の文化・習慣を発信していく必要性が以前にもまして、高まっている。

児童たちがこのような生活レベルでの変化に直面する中、聖学院小学校の英語教育では、前述のコミュニケーション技能の形成に加えて、異文化を受け入れ、自国の文化を発信できる素地を身につけることをもう一つの重点としてきた。

そのための教育活動は、英語の授業の内外にまたがっている。英語の授業の中では、日本の文化・習慣などを学ぶが、海外からの来訪者があるときは、授業で学んだことを児童が実際に発信する体験をしている。その際、「あなたの知らないことを私が教えてあげる」という気持ちが、彼らの積極性を引きだすことにつながっている。

本稿では、聖学院小学校の英語教育の2本柱の一つである文化学習の中から、「日本の文化・習

慣を伝える英語の授業の実践」について、授業の概要、授業内外での活動、児童や保護者の反応等を紹介するとともに、学外から寄せられる関心の高さについても触れてみたい。

●英語で学ぶ「日本」—授業の概要—

聖学院小学校では、1年生から6年生まで、英語の授業を週に2回行っている。各学年に適したテキストを使用し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく教え、その中で、各学年、年間5～7回程度、日本の文化・習慣を英語で学ぶ。教材は筆者チーム(Byrd, Brian・相羽千州子・筆者)が独自に開発したオリジナル教材で、日常会話によく使う表現を含む簡単な英語を使い、チャンツを用いて児童が英語を覚えやすくしている。

低学年クラスでは、おにぎりの作り方、お箸の持ち方とマナー、「おせんべやけたかな」等の日本の遊び、「桃太郎」「おむすびころりん」等の昔話等を学んでいる。教師が動作を交えながら英語を言い、児童は教師の後について動作と英語をくり返す。何度も練習し、皆の前で小グループで発表する。

高学年クラスでは、「子どもの日」等の日本の年中行事、折り紙の折り方、抹茶の飲み方等、日本の文化・習慣を英文の説明が付いた絵教材を用いて学んでいる。教師が場面を提示しながら動作を交えて英語を言い、児童は教師の後について英語と動作をくり返す。次に同じ場面の英文を読み、定着をはかる児童は小グループで絵カードを使用して練習し、皆の前で発表する。発表の機会が増えるにつれて、人前で話すことにも慣れていくようである。

●「日本」を発信する―授業内外の活動―

低学年の児童には学校で学習したことを家族に伝える課題を出している。家族に英語で伝えることができ、誉められた時の児童の喜びは大きい。毎年行う保護者へのアンケートでは「内容が身近なので家庭で子どもと一緒に英語を楽しむことができた」「子どもが張り切って英語で教えてくれた」等の意見が多い。

また、聖学院小学校では、海外から来訪者があった時は児童が日本の文化・習慣を紹介している。2010年度はオーストラリアとハワイから小学生、インドネシアから高校生、シンガポールやイギリスから教員の友人が訪問するなど、海外からの来訪者が多かった。児童による日本の文化・習慣の紹介は来訪者からも大変喜ばれている。彼らは必ず児童に対し、伝えてくれたことへ感謝の意を示し、その内容にも興味を示してくれる。このことが児童に自信を持たせ、英語学習のモチベーションにつながっているようである。児童自らが出演して、海外に発信する日本紹介のビデオ作りも行い、アメリカの小学校にも送った。

児童を対象に毎年行うアンケートでは、「自分が日本のことを外国の人に伝えられてうれしかった」「もっと他のことも伝えてみたい」とほとんどの児童が記す。これにより、この英語での試みを通して、日本の文化に対する児童の興味も深まっていることがわかる。

●学外からの関心―公立小学校の先生方とともに―

筆者らは、2011年度から始まる公立小学校5・6年生英語必修化、担任指導の英語授業の実践に向け、この「簡単な英語で日本を紹介する」試みを小学校英語指導法セミナー、公立小学校英語研修会などで数多く紹介している。公立小学校の先生方へのアンケートによると、「誰もがよく知っている内容なので教えやすい」「児童がよく覚えて楽しんでいる」「このような教材をもっと提供

してほしい」との意見が聞かれる。担任の先生が行う公開授業にも役立っているようである。

文科省は新小学校学習指導要領の中で、外国語活動の目標を「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」と設定している。ここで述べた日本文化・習慣の紹介はこの目標に合致するレッスンの一つであると思われる。

以上、本稿では、聖学院小学校での英語教育の一つの柱である文化学習に関して、英語で日本文化・習慣を学ぶ授業、授業内外で実際に学んだ内容を発信する活動について紹介するとともに、これらの教育活動が小学校英語教育の先進事例として、これから新たに英語教育に取り組む公立小学校教師たちからも関心を集めていることを報告した。

既に述べたように、子どもたちは、この日本紹介の英語活動に積極的に取り組んでいる。彼らにとっては、外国の人と何かを分かち合うことができたこの経験が将来、積極的に自分の文化を海外の人に発信できる基礎となるものと確信している。そして、今後もこの実践に関心を持つ学内外の教員たちと連携して、日本紹介の活動を継続発展させ、積極的に英語が使える児童の育成に貢献していきたいと願っている。

(ふじわら・まちこ 聖学院大学総合研究所特任講師、聖学院小学校英語講師)